

小金井市長期計画審議会

配付資料一覧

平成22年 1月 14日

	No.	資料名	備考
第1回 (6月12日)	1	小金井市長期計画審議会条例	資料1
	2	小金井市長期総合計画策定本部設置要綱	資料2
	3	小金井市市民参加条例(抜粋)及び同施行規則(抜粋)	資料3
	4	小金井市長期総合計画策定方針	資料4
	5	長期総合計画に係る討議要綱	資料5
	6	長期計画審議会のスケジュールについて	資料6
	7	小金井市長期総合計画(第3次小金井市基本構想・後期基本計画)	参考資料1
	8	同上 概要版	参考資料2
	9	平成20年度小金井市長期総合計画策定のための市民意向調査報告書	参考資料3
	10	同上 概要版	参考資料4
	11	こがねいデータブック2008(旧名:小金井市の現況'04)	参考資料5
	12	こがねい市民討議会2008実施報告書	参考資料6
	13	長期総合計画策定に係る「子ども懇談会」開催結果	参考資料7
	14	市勢要覧2008	参考資料8
	15	わたしの便利帳	参考資料9
	16	小金井市長期計画審議会委員名簿(第4次)	参考資料10
第2回 (7月15日)	17	基本構想の策定要領について(通知)	資料7
	18	多摩26市の基本構想の構成について	資料8
	19	市民の参加・協力による市内イベント一覧	資料9
	20	長期計画審議会における検討の流れについて	資料10
	21	市内視察予定表	参考資料11
	22	辞任願(写)	参考資料12
	23	長期計画審議会の「会長辞任」について	参考資料13
	24	会議録の調製について	参考資料14
	25	長期計画審議会 工程表	委員提出資料1 (三橋委員)

第3回 (8月3日)	26	多摩26市の基本構想の構成について	資料11
	27	市民意向調査における住み心地・定住志向に係る比較結果について	資料12
	28	踏まえるべき社会潮流について	資料13
	29	市民参加の全体像について	資料14
	30	長期計画審議会における検討の流れについて	資料15
	31	長期計画審議会工程表	資料16
	32	会議結果の作成について	参考資料15
	33	「討議要綱」についての質問	委員提出資料2 (鮎川委員)
	34	踏まえるべき社会潮流についての意見	委員提出資料3 (吉良委員)
	35	こがねいデータブック2008についての質問と意見	委員提出資料4 (吉良委員)
	36	討議要綱「踏まえるべき社会潮流」等についての意見	委員提出資料5 (鴨下委員)
	37	こがねいデータブック2008に関するコメント	委員提出資料6 (永田委員)
	38	「踏まえるべき社会潮流」等への意見について	委員提出資料7 (三橋委員)
	39	長期計画・討議要綱への意見	委員提出資料8 (五十嵐委員)
第4回 (8月31日)	40	第4次小金井市基本構想(素案)前半	資料17
	41	小金井市長期計画審議会(第3回)質問及び回答	資料18
	42	小金井ボランティア・市民活動団体パンフレット	参考資料16
	43	踏まえるべき社会潮流	委員提出資料9 (玉山委員)
	44	社会潮流(社会経済構造の変化)について	委員提出資料10 (三橋委員)
第5回 (9月17日)	45	第4次小金井市基本構想(素案)前半についての意見	事前配布資料 鮎川委員
	46	長期計画審議会・基本構想(素案)前半への意見	事前配布資料 五十嵐委員
	47	「長期計画審議会・基本構想(素案)前半」について	事前配布資料 鴨下委員
	48	こがねい市民討議会2009 実施報告書	当日配布資料
	49	小金井市長期計画起草委員会設置要綱	当日配布資料
	50	第4次基本構想(素案)前半の構成について	当日配布資料
	51	第4次小金井市基本構想(素案)前半	当日配布資料 淡路委員
	52	社会潮流(社会経済構造の変化)について	当日配布資料 三橋委員
	53	素案の骨格を考える上での各項目の要約(キーワード)	当日配布資料 三橋委員

第6回 (10月7日)	54	「協働」について	事前配布資料 渡辺委員
	55	小金井市協働推進基本指針	事前配布資料
	56	第4次小金井市基本構想(素案)後半(施策の大綱等)	事前配布資料
	57	第4次小金井市基本構想(素案)前半についての意見	当日配布資料 玉山委員
	58	市民懇談会の概要及び広報について	当日配布資料
	59	第3次基本構想・後期基本計画の主な事業及び評価について	当日配布資料
	60	第4次基本構想・前期基本計画の施策の体系	当日配布資料
	61	基本構想の目的と策定意義・役割	当日配布資料 淡路委員
	62	基本構想の枠組み	当日配布資料
第7回 (11月11日)	63	小金井市長期計画審議会意見	当日配付資料 三橋委員
	64	第4次小金井市基本構想(素案)後半についての意見	当日配付資料 今井委員
	65	第4次小金井市基本構想(素案)後半についての意見	当日配付資料 鴨下委員
	66	第4次基本構想(素案)第6章修正案(一部)	当日配付資料 淡路委員
	67	第4次小金井市基本構想(素案)修正案	当日配付資料
	68	基本構想の構成	当日配付資料 三橋委員
第8回 (12月3日)	69	第4次基本構想(素案)修正案に対する長期総合計画策定本部での意見について	事前配付資料
	70	第4次小金井市基本構想についての意見	事前配付資料 鮎川委員
	71	長計審への意見	事前配付資料 町田委員
	72	第4次小金井市基本構想(素案)修正案	事前配付資料 三橋委員
	73	第4次小金井市基本構想についての意見	事前配付資料 鮎川委員
	74	第4次小金井市基本構想(素案)修正案	当日配付資料
	75	施策の大綱・福祉と健康について	当日配付資料 玉山委員
	76	将来像修正案	当日配付資料 三橋委員
	77	行政経営と最適の訂正	当日配付資料 淡路委員
	78	市民懇談会の概要について	当日配付資料
第9回 (1月14日)	79	第4次基本構想(素案)に関する市民懇談会 質疑応答概要	当日配付資料
	80	第4次基本構想(素案)に関する市民懇談会 の意見集について	当日配付資料 三橋委員
	81	第4次基本構想(素案)中間報告に対する長期総合計画策定本部での意見について	当日配付資料
	82	第4次基本構想・前期基本計画(素案)	当日配布資料
	83	工程表	当日配布資料 三橋委員

第4次基本構想（素案）に関する市民懇談会質疑応答概要

第1回

日時：平成21年12月20日午前9時30分～午後0時20分

会場：東小金井駅開設記念会館（マロンホール）

1. 全体について（武藤会長）

【武藤会長】

- ・ たくさんの質問をいただきありがとうございました。
- ・ 全体的な観点に関する質問に対しては私に対応し、審議会としての意見を述べたい。今後、事実に関して、行政から教えてもらうことはあるかと思うが、基本的には審議会の考えを述べていきたい。

Q1 基本構想と審議会の関係について教えていただきたい。

- ・ 基本構想は議会で議決することが義務付けられている。現在は素案の状態であるので、みなさまの今日の意見を踏まえながら修正をし、基本計画と一体として考えつつ、市長に提案していく。審議会は市長の諮問機関であるので、市長から諮問を受け、市長に対して意見を提案することになる。その後、市長は議会に上程し、議会が議決することにより、基本構想は最終的に確定する。

Q2 人口予測について 「H35（2023年）以降減少」とあるが、東京都市町村別人口予測では、2010年をピークとして下降する。また、2009.12は外国人を含め11.4万人であり、ピーク設定が違うのではないか。

- ・ 人口予測については、科学的なデータを踏まえ、人口予測の手法を踏まえ行ったものである。認識と異なると思うが、できるだけ正確に予測している。

Q3 中間報告のことではないが、「懇談会」の形式について 「協働」の主旨からすると「教室型」で事業のような形式はよろしくない。「車座方式」で話し合えるようにするとよいと思う。

- ・ 会場や説明方式、来場人数の予想が難しかった関係でこのような形になったが、みなさまの意見をできるかぎり取り入れたい。

Q4 市民参加、市民協働は、車の両輪として欠かせないものですが、市の職員の中にはこれと理解せず、敵対する行動を取るものがあります。教育・指導が大切です。

- ・ 本当にそうであれば、審議会長として、そのような行動を取らないようお願いしたい。市民参加に慣れていない職員もいるかもしれないので、市民の皆様にご鍛えていただいて、市民参加を重視できる、活用できる職員になっていただきたい。

Q 5 素案の全体における位置づけについて教えていただきたい。最終案とどう違うのか、変わるのか（これから最終案にどのような過程で変わるのか）など。

- ・ 現在の素案は未確定の段階である。今後、審議会を重ね、来年の夏をめどに答申し、審議会案を確定させ、市長に提出し、必要に応じて修正し、市の責任のもとに議会に上程、議会が議決していく。

Q 6 文章表現について、構想の性質上、「～します」といったような努力義務の表現は仕方ないが、構想の検証はいつ、どのような機関によって行われているのだろうか。

Q 7 構想は市のどのような部署によって推進され、どの程度の条例が必要になると考えているのか。

- ・ 基本構想については現在、長期計画審議会が審議をしている状況である。審議会の委員は 16 名いるが、委員だけでは十分に市民の意見を反映できない可能性があることから、議事録を公開し、常時意見を受け付ける体制をとっている。

Q 8 今日の配付資料の開催時期について 配布資料が、素案の完成稿だけだが、どのような議論をふまえてこのような素案になったか考えるため、意見や質問をするため市民にその材料が必要で、せめて起草委員会の議事録を併せて配布していただくことを検討してほしいと思います。

- ・ 起草委員会は朝 10 時から夕方 5 時まで行っているような膨大なものなので、議事録は HP で確認してほしい。

Q 9 開催時期が年末押し迫った時期になったことは残念でした。(多くの市民参加を望むという意味で)

- ・ 全体スケジュールを見つつ、未確定の段階で皆様の意見をうかがえればと考えていた。

Q 1 0 第 3 次基本構想の総括統括（評価）が必要と思うが、それをした上での第 4 次基本構想検討でしょうか。

- ・ 第 3 次計画の評価は行政内部で評価したことを踏まえ、策定している。審議会自体の開催回数制限もあるので、審議会自体ではじっくりと議論したわけではないが、行政の評価を踏まえ、第 4 次基本構想の策定を行っている。

Q 1 1 第 4 次基本構想を執行するのは、市長を執行者とする行政だと思うが、計画をどの程度尊重するのか。

- ・ これまでの経験上、審議会の意見は大方尊重されていると思う。技術的な調整はあり、審議会の意見の尊重は市長にゆだねられるが、これまでの経験からすると心配する必要はないと思う。

2. 小金井市の将来像（三橋委員）

(1) 指標について

- Q 1 2 指標は数字で示されるものか。
- Q 1 3 現状の指標と10年後の値がどう変わるのかが要と思う。
- Q 1 4 達成目標であれば「目標」という言葉を使うのが適正ではないだろうか。
- Q 1 5 新しい指標を設定の旨の説明があったが全体を読んで指標がやや唐突に出てきた印象を受けた。指標の設定に当たって、どのような経緯や背景ででてきたのか。どのように計測、データをサンプリングしたのか。この指標を実際どのように運用するのか。といった説明が入ると良いと思いました。
- Q 1 6 定性的説明のみなので、もう少し定量的説明をしてください。

- ・ 指標については、市民意向調査の3ページに、「住みやすさ」「定住意向」についての調査結果が掲載されている。住民の住みやすさ、定住意向の数値を向上させていくということが、第4次基本構想における基本的な指標となる。これまでも参考資料として公開されていたが、今回は評価指標として提示をしていくということになった。

(2) 財政について

- Q 1 7 「財政が改善されている」と説明があったが、現状と将来予測について具体的に知りたい。また、この構想の事業費、資金計画等はどのようにになっているのか。
- Q 1 8 3, 5年後の財政力指数、経常収支比率、公債費比率等はどのようになるのか知りたい。
- Q 1 9 武蔵小金井駅南口の開発を考えると、今後700億円を超える支出があるが、財政の対応は可能なのか。

- ・ 財政の現状については、小金井市のデータブック（126ページ）に掲載されている。財政状況がもっとも危機的な状態であったのは平成8年度前後であった。その後、改善に向かい、平成19年度には経常収支比率は92.3%にまで改善した。公債費比率も11.1%から8.7%に改善するなど、26市平均に近づいてきている。
- ・ 将来の財政について心配はあるが、基本構想においては財政の大きな課題を抽出した上で、具体的な内容については基本計画における財政フレーム（5年間）、各施策の予算については実施計画で検討することになる。

(3) その他意見

- Q 2 0 ごみ問題は、各市・区だけで独自に扱うことには限界があり、東京都の地図の市域の線はずして、見ると。果てしない市街地であり、小金井市とて、ジグソーパズルの1コマにすぎない。今や、都市計画レベルにないと解決できないごみ処理は、広域の自治体が連合して当たらないとダメ。地方都市では、森林の中、森の公園の中に火葬場とごみ焼却場を設けている。東京での地勢を見ると、基地・公園等が適地。小金井市が言い出しっぺでよいから、周辺市に呼びかけ、息長くやるべき。

- ・ 承ったご意見を踏まえ、基本計画などで検討したい。

Q 2 1 「社会潮流」は、小金井市の現状と課題の背景であって、あえて基本構想で頁をさいて解説する必要がないのではないか。参考扱いでよいのでは。

Q 2 2 第3次の基本計画と比較して「社会潮流」、「市の現状」を踏まえた構想とした点は極めて評価（期待）出来ると思います。また、価値の優先順位をもうけて、重要課題を絞っているのは、市民にとって理解しやすいと考えます。優先順位をつけて課題を抽出している点も評価したい。

- ・ 貴重なご意見・激励のお言葉、ありがとうございます。

3. 施策の大綱・計画の推進

(1) 環境と都市基盤（永田委員）

Q 2 3 中央線の高架化に伴って、市域南北の流動化が進むと思うが、南北関係をどのようにつくろうと考えるか。

- ・ 自分が答えるのもどうかと思うが、中央線の高架化完成に伴い、南北交通の流動化についての平成 22 年に市で検討すると聞いている。その結果を踏まえ、バスルートの変更の可能性を検討するとのことである。また、小学校区についても、これまで線路で分断されてきたが、改編の可能性を検討するとのことである。個人の意見は言いにくいので、市で検討していただきたい。

Q 2 4 せまい歩道、自転車の通る道が安全面で狭いのでは。電柱の位置との関係が今後の課題では。区画整理との関係も考えるべき。

- ・ ご指摘のとおりで、小金井市は東京都の中でも都市計画道路は整備が必要とされているところであり、現状は幹線道路が狭い。財政問題もあるが、小金井街道の電線地中化が進められているように、引き続き事業を推進していかなければならないと思う。一市民として、連雀通りなどの狭い部分を改善していただきたいと願っている。

Q 2 5 災害時の避難所、食料、毛布、トイレ対応はどうなっているか。

- ・ 地域防災計画の中で検討されていると思う。データブック 2008 の 46 ページに避難場所が記載されている。また、市の地域防災計画の中で、食料、毛布の備蓄状況について記載されていると思う。阪神淡路大震災をもとに見直しをかけられ、2008 年ぐらいに最新のデータに更新されていると思うので、参照いただきたい。

Q 2 6 ”子ども”というキーワードが各所で使われているが、具体的に子育て世代（30代～40代）の定住に対して誘導策が見えない。長寿化に伴い、高齢世帯・年金世帯が増えていて、低層住宅（戸建）中心の当市では、変化がゆるやかにしか進まない。①都市計画地域の用途指定を中・高層が建つように駅周辺を変える。

Q 2 7 まとまった土地（地主の税対策のアパート経営でなく）を有効利用するために、質の良いデベロッパーなどを誘導して、子育て世代の定住誘導を考える。

- ・ 市の方で考えていただければと思う。

(2) 地域と経済（渡辺委員）

Q 2 8 「活性化」への具体的思考は。特に東小金井駅の淋しさ解消には、駅利用人口の増大が必要であり、連雀通りからの（法政大学、ピーコック前）南への計画道路（府中方面へ）を事業決定し、東小金井駅と京王線駅へのバス路線を実現し、駅利用人口を増やし、商業活性化を行うべき。それが地元住民の生活の利便性、快適性向上へつながる。

- ・ 意見を踏まえ、審議会で議論を深めたい。
- ・ 素案でも公共交通の見直しや都市整備は課題として掲げているし、特に、東小金井駅周辺は、区画整理事業により東部地区の中心として、商業・業務機能を高めるための検討することになる。しかし、道路整備と環境維持の問題が出てくるかと思う。特に、提案を実現するとすると「はけ」を通過することになり、技術的な問題等を検討する必要があるだろう。環境を保全しつつ利便性を向上していくことが求められる。貴重な意見なので、審議会で議論していきたい。

(3) 文化と教育（鮎川委員）

Q 2 9 現在、行政的には、市民部・男女共同参画室・教育委員会（学校教育部、生涯学習部）という3つの部局で執行されていると思います。本来、これらの事業は1つの部局で執行されたほうが人的にも財政的にも無駄がないものと考えられますが、いかがでしょうか。

- ・ 貴重な意見をありがとうございます。基本構想では組織改編には踏み込んでいないので、これからの議論の中で意見を紹介したい。個人的には、それぞれの部局では専門的なものを扱っているので、すべてを1つにまとめるのは難しいと思う。一方、縦割り行政への批判はあり、民間企業でも合併が盛んに進められているという状況はあるので、部局間の連携を深めていくことは必要と思う。構想の直接の検討事項ではないが、これから先の議論で紹介・検討していきたいと思う。

(4) 福祉と健康（玉山委員）

Q 3 0 第4次構想素案における高齢者の対応は予防優先にしている。

- ・ 福祉と健康分野はセーフティネットの部分であり、生きるということに直結。優先順位はつけられずすべて大切であると考えている。そのことを踏まえた上で意見に回答していきたい。
- ・ 予防優先としているのはそのとおりであり、小金井市さくら体操などの健康づくりや、地域で支えあう仕組みづくりなどを進めなければいけないと思うし、市民活動も活発に行われている分野だと思う。

Q 2 6 子どもというキーワードが各所で掲げられている、子育て世帯への誘導策が見えない。(再回答)

- ・ 難しい問題だが、次世代育成推進計画の策定が進められており、細かい部分は議論されているが、セーフティネットの網の目をつめていくことを行政の方で進めてきているところだが、

「小金井で子育てをしたい」という人が増えるのはいいことなので、そのようなことを考えながら計画を検討していきたい。

- ・ 良いアイデアがあればお寄せいただき、計画策定の中で検討していきたい。

(5) 計画の推進（淡路委員）

Q 3 1 第3次では「行政運営」との管理的なニュアンスがあるが、第4次では、「協働」の視点と「運営」から「経営」の視点を入れたのは評価。では、行政経営の新たな仕組みの具体的なイメージはどのようなものか。また、財政において「無駄のない」というワードを記述すべきでは。

- ・ 自分たちもそのような視点で変えていきたいと考えていたところである。説明の文章の中には「運営」という言葉も残っているが、できるだけ「経営」に変えていきたい。最適な行政サービスを、財政状況を勘案しながら提供できるように「コスト意識」「市民意識」を持った組織体をつくっていききたい。意見をいただき、心を強くした。
- ・ 経営モデルはいくつかあるが、問題はそれを小金井市にいかにあわせていくかということである。中央線沿線は強い行政組織体がたくさんある。少なくとも、中央線で競争しているので、われわれとしてはそういった組織体と比較しても十分に評価を得られる政策を打ち出せるような行政経営のモデルを考えていきたい。基本計画の中で職員と討議しながら、「住みたい」「住んでみたい」と思うような行政経営の足がかりをつくっていききたいので協力いただきたい。
- ・ 審議会で検討し、主張を裏付けられるようであれば反映していきたい。

Q 3 2 「企業会計手法の活用」とは具体的にどのようなことなのか。

- ・ 具体的策を検討しているわけではないが、管理会計的な性格で、一つひとつの政策が市民のニーズに見合った税金が投入されているのかを検証できるような仕組みをつくるのが中心になっていくのだと思う。それらが各政策で進められれば財政状況も改善されるのではないだろうか。
- ・ いただいた意見を十分反映させるようにしていきたい。

4. その他（伊藤部長）

Q 3 3 「みどり」にしても「水・河川」にしても近隣市との連携・協働が欠かせないが、この点をもう少し説明していただきたい。

- ・ 「環境と都市基盤」分野に相当するが、国分寺崖線については国分寺市から世田谷区まで、玉川上水の水と緑についても沿線自治体や東京都などとの関係がある。野川、仙川は一級河川なので東京都の管轄となる。水とみどり、河川についても、近隣市や東京都との連携が必要になると考えている。

Q 3 4 （仮称）市民交流センターは本当に市のものになるのか。UR が勝手につくっている状態なのではないだろうか。

- ・ 「文化と教育」分野の「文化・芸術」の部分に、(仮称)市民交流センターの記載がある。本来であれば、議会に対して財産取得や売買契約締結、交流センター設置条例を上程するところである。予定では2010年秋ごろに竣工を予定しており、それまでの間に議会に上程し、議決をいただきたいと考えている。再開発の過程の中で、現在はURが建設しているということで理解いただきたい。

第2回

日時：平成21年12月20日午後2時30分～午後5時30分

会場：小金井市市民会館（萌え木ホール）

1. 全体について（武藤会長）

【武藤会長】

- ・ たくさんの質問をいただきありがとうございました。全部で約30件のご意見を頂いた。
- ・ 全体的な観点に関する質問に対しては私が対応し、審議会としての意見を述べたい。

Q1 コミュニティという言葉を実体化する必要があるのではないか。人と人を結ぶ地域社会の最適な単位として、小学校区をコミュニティの単位として記載してはどうか。

- ・ コミュニティの適切な規模については審議会でもまだ検討していない。他自治体の事例、たとえば孤独死を防ぐ活動などでは、自治会や商店会などが中心となって活動するケースが多く、市民活動の活動区域が小学校区に限定されないことも多いようだ。ただし、現在では活動区域を小学校区に合わせようとする動きが広まってきている。
- ・ 今後、小金井市でも実施計画を進めていく中で検討していくことになるだろう。なお、基本構想にはコミュニティの単位までは記載しないこととしたい。

Q2 市民参加が重要とされているが、協働に際して行政側の責任、義務、権利、権限等については明確になっているのか。

- ・ 協働という概念は、資料（p2）にもあるように「市民及び市が、お互いを尊重し理解して、広く市民の意見を反映させるため、市民が市政に参加すること」である。この理念については共通であるが、市民と行政の役割分担のあり方は、対等の立場で相互理解して個々の事業の中で考えていくべきものであり、一般化することは難しいと考えている。

Q3 市民参加・市民協働という美辞麗句はそれはそれで結構だが、去る12月12日にそれと逆行する事件を市職員が引き起こしているの、審議会の皆さんにも当日何があったのか、よく調べてみて議論に活かしてほしい。調べてみますか。でしたら資料を送ります。

- ・ 事実確認については、可能な範囲で調べてご報告する。午前中の第1回目の懇談会でも、市民参加・協働に対する市職員の対応がよくないとの意見が出た。
- ・ 職員の中には、市民の皆さんとの対話が得意でない人もいるだろう。そのような人に対して

は、人材育成の観点から意識啓発が必要だと思う。すべての職員が市民参加や協働に対応できるような体制作りを今後行っていきたいと思っている。

Q 4 「市街地整備」について 「商業・業務及び住宅との調和のとれた」との記載であるが、「公共公益の導入」はあきらめたものと理解していいのか。私としては、あきらめた方が良いと思うが。

- ・ 問題の主旨が少々分からない点があるが、ご意見として賜り、審議会の中で議論していきたい。

2. 小金井市の将来像（三橋委員）

(1) 財政について

Q 5 基本構想の中に財政の改善施策が入っていないのはなぜか。

Q 6 財政状況（市）が悪いが、人件費の見直しはしないのか。

- ・ 財政の改善施策については、基本構想においては方向性の提示を行い、基本計画において掲載するものとする。基本構想では資料（p 22）の「財制・財務」の項に記載している。
- ・ 人件費見直しについては、実施の有無をここで回答することは出来ないが、「人件費などの経常経費の削減」と基本構想にも記載していることから、今後引き続き基本計画でも検討していくことになると思われる。

(2) 再開発について

Q 7 「駅周辺を中心としたまちづくり」がその一つに挙げられています。そして、P. 11を見ると、新ごみ処理施設の建設やごみ減量よりも優先して記載をされているのです。まちづくりは駅周辺に限らず、様々な地域で行われるべきものです。駅前一極集中を誘導するような記載は、無駄遣いの駅前ホール購入や駅前市庁舎建設を誘導するもので認められません。さらに、現下の状況からして、全てに優先してごみ問題を優先記載すべきでは。

また、現行の第3次基本構想では、「重点政策」という括りはありませんでした。しかし、今日は、そういう考え方が突然持ち出された。

Q 8 国政の流れは、財源の再分配、今までの優先順位を変えようとしています。市政は、再開発がまだ道半ば、財政状況も悪い。（説明では改善という評価ですが）このような中で、しっかりした財源確保ができ、このままの開発が進んでいけるのか、市政の重点施策、優先順位をどうつけるのか。

Q 9 資料（p 6）「駅周辺開発、道路などの整備とその活用」に「いずれも財政状況を見通した・・・」とあるが、この「いずれも」は前段で言及された複数の開発のどこからどこまでを指しているのか。（仮称）市民交流センターの活用まで含むのか。わかりにくい文章です。

Q10 資料（p6）「駅周辺開発、道路などの整備とその活用」の中で、武蔵小金井駅北口及び東小金井駅南口の開発についてのみ「市民の意向を踏まえて進めていく必要があります」と記載があるが、第2地区についても地権者だけでなく、市民の意向も踏まえる必要があるのではないか。巧みに市民を無視しようとする文案です。

- ・ 重点政策としての「駅周辺を中心としたまちづくり」駅周辺のまちづくりの本文の表現を見ていただくと、ハードだけではなく、ソフト面の取り組みを強調している。また、駅前開発自体が、これまでの長期にわたって市の重要な問題であった。具体的な開発の内容は今後更に検討していくとしても、これからの10年間も駅前をどうするかという問題が引き続き検討されるべき課題であることは間違いないと考える。
- ・ 文言の読み方については、地区ごとの状況を踏まえた記載にするために当初から修正を加えているが、市民の意向を重視することは地区によらず重要であるため、誤解を生むようであれば修正を検討したい。
- ・ 重点政策は、これまで市の策定方針の中で基本構想に記載することとなっており、討議要綱においては、7つの重点政策が挙げられ、これを参考にして絞込みを行うことになっていたが、市の基本構想（素案）には記載されず、基本計画で記載するとのことだった。しかし、審議会における議論の中で、基本計画だけでなく基本構想でも重点政策を策定することについて記載した方がよいという意見が出され、今回のような形式となった。

(3) ごみ問題について

Q11 ごみ対策は、今後具体的にどのようなものを考えているのか。

Q12 ごみ処理施設については、場所の前に処理方法が最重要ではないか。

- ・ ごみ問題については、資料（p6）の重点政策の中で「みどりの保全と拡大・ごみ問題」において、「（ごみ問題が）市政の最重要課題となっています」と記載している。基本構想でこのような表現をとることは極めて稀である。また、施策の大綱の「地域環境衛生」の中でもごみ問題には十分に触れている。施策の大綱の中で優劣をつけることはしないが、これらの表現等からごみ問題が重要である点を十分に認識しているという点についてはご理解いただきたい。
- ・ いただいたご意見をきちんと承って検討していきたい。

(4) 庁舎について

Q13 庁舎について、資料（p22）「計画的行政」の「庁舎の建設を計画的に推進」については、「市民参加での検討」や「市民の多数意思に基づく建設場所の決定」などの文言を入れ、行政の独走にしばりをかけた方がいいのではないか。

Q14 役所のリース問題は今後どうするのか。

- ・ 庁舎リースについて、審議会では場所の決定等について、今後10年間の議論とはならないだろうという議論があったため、新庁舎の建設という記載となっている。基本計画や実施計画を検討する段階で、また詳細については詰めていきたい。

(5) 幼児教育について

Q15 「幼児教育」の後段について 小金井には、市立幼稚園はなく、私立だけである。これまで、閉演を見てもないふりをしてきたわけであるが、この記述によって何か具体的に動くのか。(運営管理に口を出せるのか。)

Q16 幼児教育 公立のない中で、市がどのような支援をイメージしているのかみえない。お金の補助以外に幼児教育にどう入っていくのか具体的にお聞きしたい。

- ・ 幼稚園の安定的存続については、コミュニティの存続にも係る問題でもあり、審議会でも大きな議題となっていた。
- ・ 一番重要なのは、保護者や子どものニーズを把握した施策である。保育の内容に関するニーズか、または時間や日数の延長か、そのようなニーズの内容について把握していきたい。
- ・ 施策体系としては行政が行うべきことを記述したものはあるが、今回の基本構想においては最初に説明のあったとおり「私たち」が主語となっている。したがって、幼稚園の安定的存続のために私たちができることは何か、という観点から、審議会にて検討を行っている。

Q17 (6) 数値目標がわかりづらい → 未回答

3. 施策の大綱・計画の推進

(1) 環境と都市基盤 (永田委員)

Q18 「みどりあふれる快適で人にやさしいまち」、「みどりのゾーンを増やす」、「更なる水辺の創出」とは、具体的な計画があるのか。

- ・ 基本構想では個別の計画については言及していない。ただ、これまで審議会でもいろいろと議論がなされてきている。緑のゾーンについて言えば、まとまった土地に対して緑化を行うのではなく、屋上や壁面の緑化なども含めて考えたらどうかという議論を行っている。ただし、まだ具体的な検討ではない。
- ・ 野川・仙川の整備については東京都の事業であり、水害など防災上の整備については既に完了したとの認識である。したがって、今後は親水の間として整備していくよう、小金井市から東京都へ要望すべきとの議論を審議会にて行った。
- ・ 個人的な意見ではあるが、仙川について、公務員住宅の再整理の一環として親水的な整備が計画されていると聞いているため、具体的にはそのような内容となるだろう。

(2) 文化と教育 (鮎川委員)

Q19 時代に即した教育内容という所で「ノーマライゼーション」の理念、学校環境の更なる整備のところに「バリアフリー化」の記述があってもいいのではないのでしょうか。教育と福祉との間にこそ、バリアをなくす努力が必要に思えます。

- ・ 確かに、子育てや子育てのみならず、すべての領域に関してバリアをなくしていくことが必要である。ただ、基本構想全体を通しての方針として、なるべく用語の重複を避けるように調整して記載している。バリアフリーについては福祉分野で重点的に記載しているため、現状では教育分野で特に記述していない。

- ・ ただし、貴重な意見なので審議会にて再度検討したい。

Q 2 0 生涯学習分野の中では、公民館、図書館等の社会教育施設はどのように位置づけられているのでしょうか。

- ・ 公民館、図書館などの社会教育施設は、箱物として社会教育の中心であるだけでなく、公民館、図書館において企画が行われたり、市民の集い・活動の場として活用されるなど、生涯学習の中心となる場として位置づけられている。

Q 2 1 文化と教育について 生涯学習図書館の場の整備とは、どのようなものか。

- ・ 現在の図書館本館は、市民のニーズに十分に答え切れていない部分もある。今後の10年間について、ニーズ調査の結果等を見て方向性を決めていく予定である。
- ・ 貫井北町地域センターも、今後10年間のうちには完成する見込みである。このセンターには図書館、公民館、青少年施設も併設されることになるので、生涯学習の拠点として整備が進んでいくだろう。

(3) 福祉と健康（玉山委員）

- ・ 福祉と健康の5つのセーフティネットについてはいずれも重要であり、順序付けは出来ないという前提に立ってご説明したい。

Q 2 2 資料（p 1 0）子どもにやさしいまちは、親世代にやさしいことにつながるというお話しでしたが、こと子ども施策は、必ずそうではないこともあるのでは。例えば、子どもにとっては病気のときぐらい親にいてほしくても、病後保育や延長保育がすすめば、望んでもそうはならない。子どもの育ちにはやさしいものにはならない。親自身の育ちも保障されない。こと子ども施策においては、子どもの権利の視点を十分に討議して、あえてしないサービスも必要ではないか。（特に小さい子どもの声は届きにくい。）そうはいつでも、必要な人には選べるようなことも大切。公がすることを再考し、民がするなら質の保証を担保するような市の役割を期待したいがどうか。

- ・ 自分自身としても、まさに同意見である。
- ・ 病児保育や延長保育は、子ども自身のためにはならないが、それによって女性が働く環境が厳しいものになってしまう。ワークライフ・バランスの視点から施策を考えると同時に、企業や行政のトップには、子育てに十分に理解のある人がなってほしい。この点については基本計画に展開させていきたい。

Q 2 3 「子どもが元気なまちが発展する」まちを目指すのは心強い。しかし、そのペースとしてのびのびと遊び仲間づくりができる環境、一人ひとりの思いや意思が尊重される参加のシステム、失敗経験も含め再トライできる社会システムなど、大人の責任で整備する必要を感じますが、どこに反映されているのでしょうか。

- ・ 多岐にわたる意見であるが、子どもに関して言えば、資料（p 1 9）の「子ども家庭福祉」

に記載をしている。子どもが少なくなっているため、ニーズ調査を行うと数として表れないため厳しいが、子どもがいる以上、ニーズが現れても現れていなくても子どもの居場所確保は必要な施策である。この点については、今後も指摘を行っていきたい。

(5) 計画の推進（淡路委員）

Q24 「選択と集中」とは何をさすのか。

- ・ 民間企業で活用される意思決定の手段であり、競争において自分の強みを考えて選択する方法である。近年では行政でも取り入れられている。
- ・ 民間企業と行政で違う点として、民間ではお客さんの希望には全部こたえられず、自社の強みを考えて一つに絞ることになる。その一方、行政の場合は、一つのニーズを選択して終わりではなく、対応できなかった部分についても配慮が必要となる。選択した一つのニーズが市全体にとっても市民にとっても有益でなければならないことが、民間との大きな違いである。
- ・ そのような視点から、今後行政の自己改革が必要となるだろう。

Q25 「行政評価の拡充」では不十分であり、「事業仕分け」の実施を明記し、外部委員による評価をめざしてはどうか。

- ・ ぜひ検討したい。ただし、当初行政評価を実施した自治体は、PDCAのP（計画）が不十分のままC（評価）を行ったため、効果が上がらなかったという経緯がある。
- ・ 計画をしっかりと立てれば、評価の視点も定まる。PDCAを通して行うなかで評価をすることにより行政が自己改革し、効果的、効率的な行政改革に結びつけることが必要である。したがって現在の小金井市の状況を見て、何が必要かという視点から、再度審議会にて検討したい。

4. その他（武藤会長）

Q26 役所サイド側だけお茶が出ているのはなぜか。逆じゃないですか。

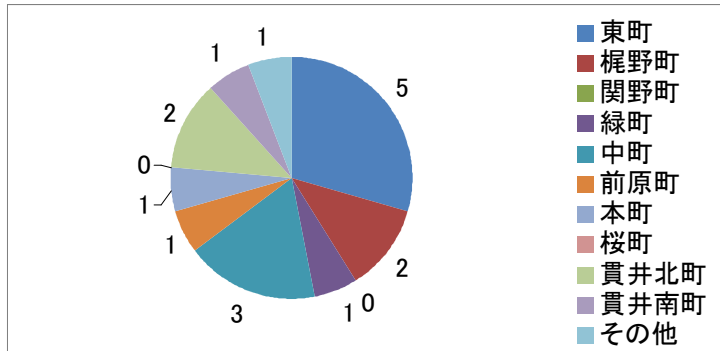
- ・ 市民懇談会は午前の部・午後の部と長丁場であり、喉が渇くだろうという配慮から準備していただいた。年明けに実施される市民フォーラムは長丁場になると予想されるため、お茶のサービス等含め検討したい。

以上

市民懇談会に係るアンケート集計結果

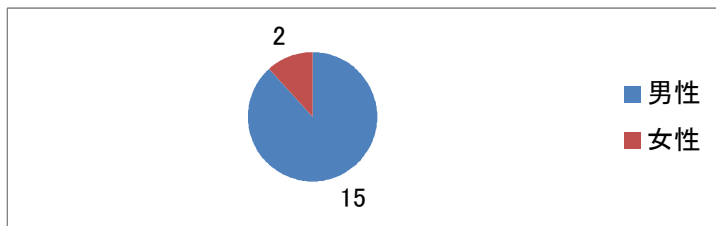
Q1 あなたの住所

A	東町	5
B	梶野町	2
C	関野町	0
D	緑町	1
E	中町	3
F	前原町	1
G	本町	1
H	桜町	0
I	貫井北町	2
J	貫井南町	1
K	その他	1



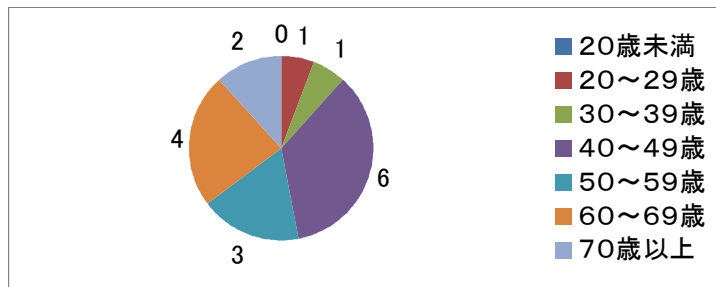
Q2 あなたの性別

A	男性	15
B	女性	2



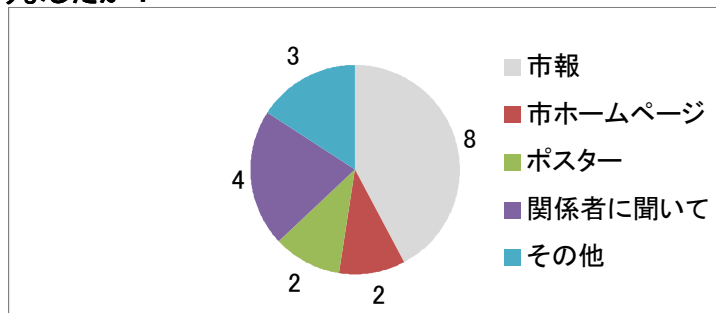
Q3 あなたの年齢

A	20歳未満	0
B	20～29歳	1
C	30～39歳	1
D	40～49歳	6
E	50～59歳	3
F	60～69歳	4
G	70歳以上	2



Q4 市民懇談会をなんでお知りになりましたか？

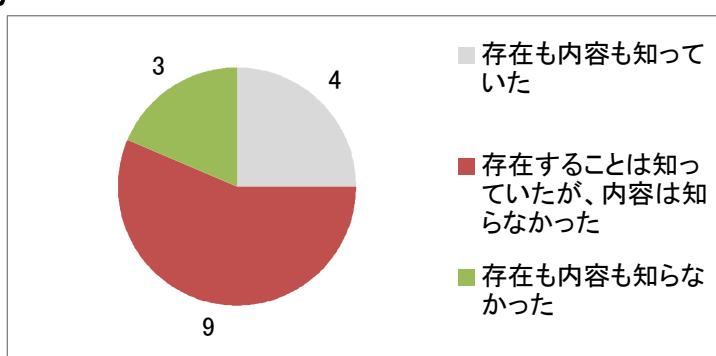
A	市報	8
B	市ホームページ	2
C	ポスター	2
D	関係者に聞いて	4
F	その他	3



Q5 ご感想を自由にお書きください

Q6 第3次基本構想をご存じでしたか

A	存在も内容も知っていた	4
B	存在することは知っていたが、内容は知らなかった	9
C	存在も内容も知らなかった	3



Q7 第4次基本構想(素案)中間報告についてご意見・ご要望があれば自由にお書きください。

第4次基本構想（素案）に関する市民懇談会の意見集について

第1回

2. 小金井市の将来像（三橋委員）

(1) 指標について

Q 1 2 指標は数字で示されるものか。

Q 1 3 現状の指標と10年後の値がどう変わるのかが要と思う。

Q 1 4 達成目標であれば「目標」という言葉を使うのが適正ではないだろうか。

Q 1 5 新しい指標を設定の旨の説明があったが全体を読んで指標がやや唐突に出てきた印象を受けた。指標の設定に当たって、どのような経緯や背景ででてきたのか。どのように計測、データをサンプリングしたのか。この指標を実際どのように運用するのか。といった説明が入ると良いと思いました。

Q 1 6 定性的説明のみなので、もう少し定量的説明をしてください。

- ・ 指標については、市民意向調査の3ページに、「住みやすさ」「定住意向」についての調査結果が掲載されている。市民の住みやすさ、定住意向の数値を向上させていくということが、第4次基本構想における基本的な指標（評価）となる。これまでも参考資料として公開されていたが、今回は評価指標として提示をしていくということになった。

(2) 財政について

Q 1 7 「財政が改善されている」と説明があったが、現状と将来予測について具体的に知りたい。また、この構想の事業費、資金計画等はどのようになっているのか。

Q 1 8 3, 5年後の財政力指数、経常収支比率、公債費比率等はどのようになるのか知りたい。

Q 1 9 武蔵小金井駅南口の開発を考えると、今後700億円を超える支出があるが、財政の対応は可能なのか。

- ・ 財政の現状については、小金井市のデータブック（126ページ）に掲載されている。財政状況がもっとも危機的な状態であったのは平成8年度前後であった。その後、改善に向かい、平成19年度には経常収支比率は92.3%にまで改善した。公債費比率も11.1%から8.7%に改善するなど、26市平均に近づいてきている。
- ・ 将来の財政について心配はあるが、基本構想においては財政の大きな課題を抽出した上で、具体的な内容については基本計画における財政フレーム（5年間）、各施策の予算については実施計画で検討することになる。

(3) その他意見

Q 2 0 ごみ問題は、各市・区だけで独自に扱うことには限界があり、東京都の地図の市域の線はずして、見ると。果てしない市街地であり、小金井市とて、ジグソーパズルの1コマにすぎない。今や、都市計画レベルにないと解決できないごみ処理は、広域の自治体が連合して当たらないとダメ。地方都市では、森林の中、森の公園の中に火

葬場とごみ焼却場を設けている。東京での地勢を見ると、基地・公園等が適地。小金井市が言い出しっぺでよいから、周辺市に呼びかけ、息長くやるべき。

- ・ 承ったご意見を踏まえ、基本計画などで検討したい。

Q 2 1 「社会潮流」は、小金井市の現状と課題の背景であって、あえて基本構想で頁をさいて解説する必要がないのではないか。参考扱いでよいのでは。

Q 2 2 第3次の基本計画と比較して「社会潮流」、「市の現状」を踏まえた構想とした点は極めて評価（期待）出来ると思います。また、価値の優先順位をもうけて、重要課題を絞っているのは、市民にとって理解しやすいと考えます。優先順位をつけて課題を抽出している点も評価したい。

- ・ 貴重なご意見・激励のお言葉、ありがとうございます。

第2回

2. 小金井市の将来像（三橋委員）

(1) 財政について

Q 5 基本構想の中に財政の改善施策が入っていないのはなぜか。

Q 6 財政状況（市）が悪いが、人件費の見直しはしないのか。

- ・ 財政の改善施策については、基本構想においては方向性の提示を行い、基本計画において掲載するものとする。基本構想では資料（p 2 2）の「財制・財務」の項に記載している。
- ・ 人件費見直しについては、実施の有無をここで回答することは出来ないが、「人件費などの経常経費の削減」と基本構想にも記載していることから、今後引き続き基本計画でも検討していくことになると考えられる。

(2) 再開発について

Q 7 「駅周辺を中心としたまちづくり」がその一つに挙げられています。そして、P. 1 1を見ると、新ごみ処理施設の建設やごみ減量よりも優先して記載をされているのです。まちづくりは駅周辺に限らず、様々な地域で行われるべきものです。駅前一極集中を誘導するような記載は、無駄遣いの駅前ホール購入や駅前市庁舎建設を誘導するもので認められません。さらに、現下の状況からして、全てに優先してごみ問題を優先記載すべきでは。

また、現行の第3次基本構想では、「重点政策」という括りはありませんでした。しかし、今日は、そういう考え方が突然持ち出された。

Q 8 国政の流れは、財源の再分配、今までの優先順位を変えようとしています。市政は、再開発がまだ道半ば、財政状況も悪い。（説明では改善という評価ですが）このような中で、しっかりした財源確保ができ、このままの開発が進んでいけるのか、市政の重点施策、優先順位をどうつけるのか。

Q 9 資料（p 6）「駅周辺開発、道路などの整備とその活用」に「いずれも財政状況を見通し

た・・・」とあるが、この「いずれも」は前段で言及された複数の開発のどこからどこまでを指しているのか。(仮称)市民交流センターの活用まで含むのか。わかりにくい文章です。

Q10 資料(p6)「駅周辺開発、道路などの整備とその活用」の中で、武蔵小金井駅北口及び東小金井駅南口の開発についてのみ「市民の意向を踏まえて進めていく必要があります」と記載があるが、第2地区についても地権者だけでなく、市民の意向も踏まえる必要があるのではないか。巧妙に市民を無視しようとする文案です。

- ・ 重点政策としての「駅周辺を中心としたまちづくり」駅周辺のまちづくりの本文の表現を見ていただくと、ハードだけではなく、ソフト面の取り組みを強調している。また、駅前開発自体が、これまでの長期にわたって市の重要な問題であった。具体的な開発の内容は今後更に検討していくとしても、これからの10年間も駅前をどうするかという問題が引き続き検討されるべき課題であることは間違いないと考える。(追記:そもそも小金井市の特徴と課題として、利便性と環境の調和があり、駅周辺を中心とした市内外のアクセス(中央線と市内のバス網)のよさ及び市の玄関口かつ市民にとって最も利便性の高い駅前の賑わいの創出は課題でもある。費用対便益の観点をきちんと踏まえて、最小のコストで最大限の効果が得られるような施策を検討していきたい。)
- ・ 文言の読み方については、地区ごとの状況を踏まえた記載にするために当初から修正を加えているが、市民の意向を重視することは地区によらず重要であるため、誤解を生むようであれば修正を検討したい。
- ・ (追記)また財源の問題は全ての施策において課題であり、本件も行財政の課題の中で指摘をしていることからここでは削除することとする。)
- ・ 重点政策は、これまで市の策定方針の中で基本構想で記載することになっており、討議要綱においては、7つの重点政策が挙げられ、これを参考にして絞込みを行うことになっていたが、市の基本構想(素案)には記載されず、基本計画で記載するとのことだった。しかし、審議会における議論の中で、基本計画だけでなく基本構想でも重点政策を策定することについて記載した方がよいという意見が出され、今回のような形式となった。

(3) ごみ問題について

Q11 ごみ対策は、今後具体的にどのようなものを考えているのか。

Q12 ごみ処理施設については、場所の前に処理方法が最重要ではないか。

- ・ ごみ問題については、資料(p6)の重点政策の中で「みどりの保全と拡大・ごみ問題」において、「(ごみ問題が)市政の最重要課題となっています」と記載している。基本構想でこのような表現をとることは極めて稀である。また、(追記:第1章の「策定と意義」のところでも市の課題として第一に指摘しており、)施策の大綱の「地域環境衛生」の中でもごみ問題には十分に触れている。施策の大綱の中で優劣をつけることはしないが、これらの表現等からごみ問題が重要である点を十分に認識しているという点についてはご理解いただきたい。
- ・ いただいたご意見をきちんと承って検討していきたい。

(4) 庁舎について

Q13 庁舎について、資料（p22）「計画的行政」の「庁舎の建設を計画的に推進」については、「市民参加での検討」や「市民の多数意思に基づく建設場所の決定」などの文言を入れ、行政の独走にしばりをかけた方がいいのではないかと。

Q14 役所のリース問題は今後どうするのか。

- ・ 庁舎リースについて、審議会では場所の決定等は、今後10年間の議論とはならないだろうという議論があったため、新庁舎の建設という記載となっている。基本計画や実施計画を検討する段階で、また詳細については詰めていきたい。

(5) 幼児教育について

Q15 「幼児教育」の後段について 小金井には、市立幼稚園はなく、私立だけである。これまで、閉演を見てもないふりをしてきたわけであるが、この記述によって何か具体的に動くのか。（運営管理に口を出せるのか。）

Q16 幼児教育 公立のない中で、市がどのような支援をイメージしているのかみえない。お金の補助以外に幼児教育にどう入っていくのか具体的にお聞きしたい。

- ・ 幼稚園の安定的存続についてはコミュニティの存続にも係る問題でもあり、審議会でも大きな議題となっていた。
- ・ 一番重要なのは、保護者や子どものニーズを把握した施策である。保育の内容に関するニーズか、または時間や日数の延長か、そのようなニーズの内容について把握していきたい。
- ・ 施策体系としては行政が行うべきことを記述したものではあるが、今回の基本構想においては最初に説明のあったとおり「私たち」が主語となっている。したがって、幼稚園の安定的存続のために私たちができることは何か、という観点から、審議会にて検討を行っている。

Q17 (6) 数値目標がわかりづらい → 未回答

(追記) 指標については、市民意向調査の3ページに、「住みやすさ」「定住意向」についての調査結果が掲載されている。市民の住みやすさ、定住意向の数値を向上させていくということが、第4次基本構想における基本的な（評価）指標となる。これまでも参考資料として公開されていたが、今回は評価指標として提示をしていくということになった。

第 4 次基本構想（素案）中間報告に対する長期総合計画策定本部での意見について

頁	行	中間報告	訂正案	訂正理由
1 6	5～6	市民ニーズを把握して、新たな出店・サービスを拡充して、地域を支え、地域に支えられる魅力ある商業・商店街づくりを進めます。	市民ニーズに対応する個性ある商店街を目指し、地域を支え、地域に支えられる魅力ある商業・商店街づくりによるにぎわいの創出に努めます。	新たな出店・サービス拡充及び商業・商店街づくりの主体は商業者・商工会であるため。
1 6	1 4	農業経営の安定化を図ります。	農業経営の安定化支援に努めます。	農業経営安定化の主体は農業者であるため。
1 6	下から 1 0	消費者生活・勤労者の福祉	消費者生活・勤労者福祉	中分類は分野を示すもので、原則として単語であるため
1 6	下から 7	勤労者福祉については、市内は中小零細企業が多いため、	勤労者福祉については、市内には中小零細企業が多いため、	語句の整備
1 7	下から 1 3	だれもが尊重され平和に暮らせる社会を目指して、	だれもが個人として尊重され平和に暮らせる社会を目指して、	語句の整備
1 7	下から 4	生涯学習活動に対する支援、情報提供やネットワークの整備し、	生涯学習活動に対する支援、情報提供やネットワークの整備を進め、	語句の整備
1 8	6～	児童・生徒一人ひとりが夢を持っていきいきと学べるような学校教育を計画的に推進します。そのために、時代に即した教育内容はもちろんのこと、児童生徒及び教員の心と体のケアや教職員の研修の充実を図ります。	児童生徒一人ひとりが夢を持っていきいきと学習できる学校教育の計画的推進により、時代に即した教育内容はもちろんのこと、児童生徒の心と体のケア、教職員の研修・研究の充実を図ります。	語句の整備 児童生徒へのケアに係る部分であるため、「及び教職員」を削除

(参考) 第 4 次基本構想・前期基本計画の計画期間（平成 23 年度～27 年度）に合わせて変更した箇所

頁	行	中間報告	訂正案	訂正理由
1 3	下から 1～2	さらに、中間処理場については、施設の老朽化に対応し循環型社会の形成に資する施設として再整備を図ります。	さらに、中間処理場については、施設の老朽化に対応し循環型社会の形成に資する施設の整備について、地域住民との協議が必要となります。	中間処理場の再整備は平成 29 年度を目途としており、平成 27 年度まではそのための住民との協議が中心となるため。

資料83

長期計画審議会 工程表(2010年1月版)

●審議会

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
審議会開催日	6月 12日 木	7月 15日 水	8月 3日 月	8月 31日 月	9月 17日 木	10月 7日 水	11月 11日 水	12月 3日 木	1月 14日 水	1月 27日 水	2月 10日 水	2月 24日 水	3月 10日 水	4月～6月		
1 小金井市の現状と第3次基本構想の評価	←						→									
(1)小金井市の現状と課題の整理 (討議要項、市民意向調査、データブック等)	●	● 市内見学会	●	●	●											
(2)第3次基本構想、後期基本計画の評価						●										
2 第4次小金井市基本構想の検討	←						→									
(1)前半(策定の意義と役割～小金井市の将来像)				●	●	●	●	●								
(2)後半(施策の大綱、計画の推進)						●	●	●								
3 前期基本計画の検討	←						→									
(1)総論									●	●			●			
(2)各論									①	①②③	②③④	④	●			
(3)計画の推進											●	●	●			
4 答申書の作成(重点項目、付随意見・少数意見等の扱い)	←						→									

●起草委員会

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
委員会開催日	9月 12日 土	10月 4日 日	10月 11日 日	10月 31日 土	11月 22日 日	12月 12日 土	1月 16日 土	1月 7日 日	2月 14日 日	2月 27日 土	4月～6月			
1 小金井市の現状と第3次基本構想の評価	←			→										
2 第4次小金井市基本構想の検討	←			→										
3 前期基本計画の検討	←			→										
(1)総論							●	●		●				
(2)各論							①	②③	④	●				
(3)計画の推進									●	●				
4 答申書の作成(重点項目、付随意見・少数意見等の扱い)	←			→										

●市民対話

(1)市報による広報				●(委員 紹介、工 程表)		●(懇談会 前広報)	●(懇談会 前広報)			●(フォーラム 前広報)	●(フォーラム 前広報)	●(パブコメ 広報)	●(パブコメ 広報)		●(答申書 広報)
(2)ホームページ等での広報	←														
(3)文書による意見の受付(常時)	←														
(4)市民意向調査結果(データブック)の検討															
(5)子ども懇談会結果(将来像案)の検討															
(6)市民討議会結果の検討			○(開催)	●(報告書検討)											
(7)基本構想(案)中間報告案配布・意見の募集・検討															
(8)市民懇談会(12月20日開催)								●(結果の検討)							
(9)基本構想(案)・前期基本計画(案)配布・意見の募集・検討															
(10)市民フォーラム(3月27、28開催)													●(結果の検討)		
(11)意見募集ハガキつきチラシの(全戸)配布(予定)															
(12)パブリックコメント(5月受付予定)															

太線は議題の中心となる期間。細線は中心議題を審議する中で必要に応じて審議する期間。